

骨密度検査（DEXA 法）を開始しました

南台病院では、DEXA 法を用いた骨密度検査を開始しました。骨粗鬆症は骨の強度が低下し、骨折の危険性が高くなる病気です。

一般に骨の強度は骨量あるいは骨密度が 70%、骨質が 30%影響すると言われていています。骨の強度の重要な要因である骨量を測定することで骨粗鬆症の診断や骨折危険性の評価が可能となります。

現在、様々な骨量測定法がありますが、腰椎の DEXA 法が信頼の高い骨量測定法であり、骨粗鬆症診断基準（2011 年版）でも DEXA 法（デキサ法）を用いて計測することが推奨されています。

DEXA 法とは？

骨密度測定の中でも DEXA 法は、微量な X 線をあてて正確な骨密度を測定する日本骨粗鬆学会のガイドラインにおいても推奨される優れた検査方法です。骨量測定の標準方法として重視されており、誤差が少ないうえ、測定時間も短く、放射線の被爆量も少ないという利点があります。骨粗鬆症の精密検査や、骨粗鬆症の治療効果の経過観察、また骨折の危険性の予測に有用なものです。

ご心配な方は医師にぜひご相談ください。社会福祉法人黎明会 南台病院